

令和2年7月31日

保護者の皆様

仙台市立八木山南小学校
校長 高橋 昌子

令和2年度 協働型学校評価の重点目標について（お願い）

盛夏の候、保護者の皆様におかれましては、ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動に対しましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、先日「令和2年度学校要覧」を配付いたしました。今年度は新型コロナウイルス感染予防に努めながらの学校生活となっておりますが、子供たちの「できた」「分かった」の笑顔がたくさん見られる学校にすることを目指し、教職員一丸となって教育活動を展開してまいり所存です。

本校では「豊かな心をもち、創造性あふれるたくましい子どもの育成」を教育目標に掲げております。また、学校と家庭、地域の三者が協働で取り組む協働型学校評価の目標を「学ぶ意欲と確かな学力を持った児童の育成」とし、今年度も「本に親しむ児童の育成」を重点としてそれぞれの取組を進めてまいりたいと考えております。

加えて、感染拡大が懸念され、暗くなりがちな現状だからこそ、もう一つの重点目標を「笑顔であいさつができる児童の育成」とし、「元気なあいさつが飛び交う明るい学校に！笑顔であいさつを交わし合う明るい地域に！」との願いを込めました。マスク着用が欠かせず、表情が伝わらない状況ではありますが、児童が挨拶を交わし合う心地良さを感じられるよう学校での指導を進めてまいります。

児童一人一人が夢に向かって前進し、未来の創り手となるための力の育成に、学校と家庭、地域の三者が協働で取り組んでまいりたいと存じます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

読書は子供の想像力を高めます！

目指せ！！ 1年間で下学年は100冊・上学年は5000ページ！

ゲームをしたり、テレビやコンピュータで動画を見たりと、子供たちの遊び方が変わる中、読書離れが進んでいることは、本校に限ったことではありません。

子供が読書をする効果については、「集中力が高まる」「頭が良くなる」など様々と話題にあがっていますが、文章を読み、想像を巡らして物語の主人公に自分を重ねて楽しむことで、心を豊かにするとともに、想像力を高めることも読書の効果の一つです。

教科の学習の中で、文章問題が苦手という子は少なくありません。文章を読むときには、文字を読む力だけでなく、想像力が必要になります。その問題文を読み、「こんなことを表しているのかな」「どのように答えればいいのか」と想像力を働かせて内容を捉えることが重要です。話を聞くとともに、想像力を働かせて話し手の意図を捉えることで、話の内容を理解することができます。じつは、人が生活していく上で、想像力を働かせる場面はとても多くあるのです。

子供が自分から積極的に読書をする、というのは難しいかもしれません。最初は、大人が読書の楽しさを伝えられるよう、何か仕掛けが必要ですね。そこで、学校では、次のような取組を行っています。



→ 裏面もご覧ください。

○「この本、読みたい」を増やす活動

- ・読み聞かせ、児童による図書選定、図書委員会や職員による本の紹介活動

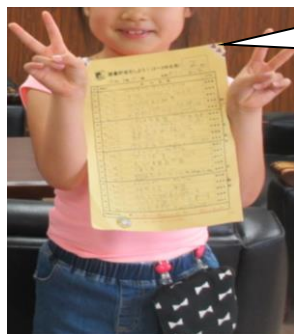
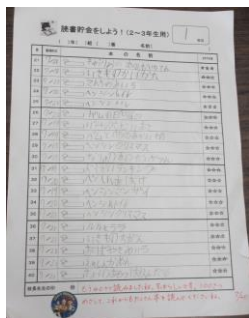
○読書環境の整備

- ・図書室経営の工夫
- ・各学級文庫の充実

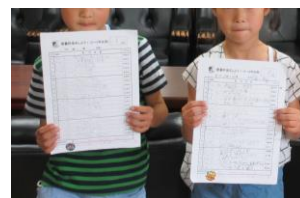
○読書カードの工夫・活用

- ・「読書貯金をしよう！」のカード（1枚で読んだ本40冊を記録することができます。）

40冊読み終え、「読書貯金をしよう！」カードがいっぱいになった児童は、校長室に持って来て見せてくれます。先週は、2年生の女の子が「校長先生、2枚目もいっぱいになったよ。」とすてきな笑顔でカードを見せてくれました。80冊です。読んだ本の分だけ、心が豊かになりますね。



もう2枚目の「読書貯金カード」がいっぱいになったよ。



地域の皆様には、「スクールたすけっと」の方々を中心に、例年、読み聞かせボランティアとしてご協力いただいております。今年度も、秋以降にお願いしたいと考えています。

ご家庭では・・・

ぜひ、親子で読書をする時間を設けてみてください。特に、年に2回設定している「家読（うちどく）週間」へのご協力をお願いします。

なかなか本になじめないお子さんには、はじめはおうちの方が読み聞かせてあげると、徐々に自分でも読めるようになるかもしれませんね。親子で同じ本を読んで感想を伝え合う、親子で本を紹介し合う、というのも子供に読書の楽しさを味わわせる良い方法です。家読週間には、短時間で構いませんので、親子で読書をする時間を設けていただきますようお願いいたします。

読書の習慣を身に付けられれば、それはその子自身の世界を広げるための財産になります。ご家庭での取組、励ましなど、ご協力よろしくをお願いいたします。

「笑顔で挨拶」は互いの心をつなぎます！

朝、昇降口に立っていると、マスクをしても分かる笑顔で明るい挨拶をしてくれる児童がいます。とても温かい気持ちになり、思わずこちらも笑顔になって挨拶を返します。

今年度、児童会行事や委員会活動を実施できない中、6年生の子供たちが学級で話し合い、7月14日から22日までの期間、「あいさつ週間」の活動を実施してくれました。「あいさつカード」と挨拶ができたときに貼るシールを自分たちで作って全児童に配り、校門や昇降口、廊下、階段などに立って、下級生に明るい声で挨拶をしてくれました。開始時は、互いに緊張感があったようですが、回を重ねるごとに笑顔で挨拶を交わす様子が多く見られるようになり、とてもほほえましく、大人も気持ちが明るくなるのを感じました。



6年生が考えてくれた
「あいさつ週間」



6年生の総合的な学習の時間に取り組んでいる「あつまれ！よ！子の森プロジェクト」の活動の一環として「あいさつ週間」を考案しました。

「明るく楽しい学校にするには？」と6年生も考えてくれていることが、うれしい限りです。



明るい挨拶の音が響き、笑顔の輪が広がりました。

相手の心に届く挨拶をすることは、周りの人と良い関係を築くことにもつながっていくのではないのでしょうか。

子供たちが安全に登校できるように、毎朝、児童の見守りにつきまして、地域、保護者のボランティアの皆様にご協力いただいているところです。この場をお借りいたしまして、心より感謝申し上げます。

子供たちがその方々に笑顔で挨拶ができるように、また、校内で互いに笑顔で挨拶が交わせるように、学校でも大人が手本となり、子供自身にも考えさせる場を設けながら働き掛けてまいります。

ご家庭では・・・

ぜひ、挨拶の大切さについてお子さんと話す機会を作っていたり、おうちの方にお手本を示していただいたりして、お子さんに挨拶の習慣が身に付くよう導いていただければ幸いです。ご協力よろしくお願いいたします。



家庭でも



地域でお世話になっている方に



友達とも

子供たちの健やかな成長を

学校・家庭・地域の協働で支えていきましょう！